

マインドのウラ2

09年5月号

はじめに

4月は仕事ばかりに向けてやったマインドであり  
今振り返ると、ウラササを売るためだけに必死こいて翻  
弄した時期である。

だからこそ、3月よりは成績がぐんと上がり、そして色々  
と迷いながらも走り続けた。

そこで、5月は非常に恐れ多いマインドで取り組んで生  
きたいと思っている

それは僕が目先の考えだったら無収入ということになる  
が、どうなのかわからない。

しかし、このマインドでやってみることによって、すごく  
僕の周りで爆発が起きる、そうなったらいいなあと思うよ  
うになった。

それは何かというと、**心から楽しいことしかやらない**。

そして**楽しくないことは絶対にやらない**。ペラサイトのウ  
ラでも何もかもそうだが、楽しくないと感じたことは捨て  
る。僕は基本的に楽しいことしかやっていないように感じ  
ているが、実は4月はいろんな意味で追い詰められてい  
たものの、すごく僕としては頼もしい時期だった。

- 1 ひっきりなしに電話がかかってくる
- 2 5名以上のクライアントがそれぞれの道に向かう
- 3 徹夜続きが多くなる

まあ、こんなところかな。

実はこういう状態になったのは一つだけ思いあたりがある。それは掃除である。

**大掃除をする。**

毎日することによって、キレイになる。

**愚痴をこぼすときは心の中にごみがたまっている。不安を口に出すときは心の中にごみがたまっている。だから、その不安を全て取り払う。**

掃除をすることによって、心のごみが全て取れてしまい、そして大きな流れに向かうことがわかった。

4月はお金が回らなくなるためのマインドだった。**お金を集める行動ばかり集中して、それがかえって上手く行かなかったといえる。**

だからこそ、5月は視点を思い切り変えて楽しいことしかない、作家の領域だけで考えていこう。

そのとき、お金が入ってこないかもよという声が聞こえるけれど、これをあえて無視してみることにする。

もちろんぴんとアイデアがふってきたときはやるけれど、それ以外はほとんど小説につき込んでいきたいと思っている。

これが30日後にはどうなるのか楽しみだ。

ただし、ある状態（自分の記事は100万円相当）と思ってやると、どうやら記事の質は上がり、コメントの質も上がってくる状態になっている。

午前11時57分

5月3日 午前11時40分

水。

僕は水となって、動く。

何を言っているのか訳がわからない。

昨日、久々に実演全てを休んで、午後2時から本屋で午後8時30分まで立ち読みしていた。

その中において、船井幸雄さんの本を読んでいたときのことだ。僕は現在26歳であるが、やっていることが36歳くらいの仕事なのだ。要は人にお金を払って外注して、自分は社長として我欲でなく、大欲視点で物事を観て、動く。

我欲というのは4月のマインドそのものであり、セールスレターをひたすら追及していたときだ。今から思えばあれこそ僕にとって金額の価値を考えさせられたことだけれど、同時にあれは我欲が最も強かったといえる月だった。でも、あの時期があったからこそ、僕は色々と学ぶことが出来たし、我欲というのは睡眠時間を削ってでも何も成果の出ないものに対してひたすら行う。

もちろん僕はあの時期はとても必要だったと考えている、じゃないと、セールスレター一つに価値があること、そして自分の文章や自分の行動全てを金額換算して眺めるといった考えが起きなかったからだ。

特に自分の文章はたった一文字だけでも1万、100万以上の価値、いや、1億もくだらない価値があると認識したときから、言葉に対してはより気をつけるようになった。

何しろ自分の言葉一つで1億が動いてしまうのだから。それは自分に利益が入るという意味でもあるし、同時に世に還元できるための金額でもある。

水と同じで、世のためになるところに還元しないと、腐ってしまうだけだ。といってもどこが世のためになるのか。

一番は色々なものに使って、自分でお金を人間とおいたとき、喜ばれるところはどこに使うのかを研究することだ。これがわからないときは最初、自分だけのために使っていると思っている。しかし、自分だけのために使うのは早いうちに卒業しないとイケない。なぜなら自分だけのために使ってもいいことなんてないからだ。いや、寂しいという気持ちが出てくるのだ。

今度は人におごったりする、まあ、見栄なんだけれど、そういう使い方をして、お金について勉強することになる、人にご飯をおごるときは本当に他人の金銭感覚や人間としての感性が見えてくるのだ。

でも、人におごるだけではまたつまらなくなってくる。それに人間の裏側を見ているので、うんざりするかもしれない。そこで今度は人の未来に喜んで投資をする。ただし、基準はひとつでその人が世のため発想をしているか、我欲でしか考えていないか？

こうやってお金の使い方を考えることによって、その人の器というもの、その人の根底にある精神が見えてくるようになる。これが見えたら次は寂しくなったときにまた、大きなところに流せばいい。

ちなみに世のために動く人に流すのは、たいてい世のために動いている人はお金について困った体験があり、お金のありがたみがわかっている人が大きいからであるのが一点、そのお金が無いときに仕事を頼まれるということにおいて、あなたにしかできないからといわれるのがいかにうれしいのかということが二点。で、たいてい世のために動いている人は愚痴や泣き言はちょっとこぼしても、人の悪口なんて本当に言わない（まあ、冗談で言うときもあるけれどさ）。もしお金を出してしくじったというときは僕も人の視点について学んだとしかいいようがない。

まずは僕のお金に対するここ最近のマインドを一つ入れた。船井さんの本を読むと、本当に自分はいろんな意味で社長をしているんだなということに気がつく。

次に風呂に入っているときのことだ。極楽という言葉は風呂に入るとよく言うのだが、**極楽状態になると考えることも素敵な未来ばかり考えるようになる**。現状がどうであれ、本当に考えるようになる。

で、極楽状態になったときにふっと大きな緩やかな温かい流れを感じることもある。イメージで言うと、大の字になって眠っているという状態かな。

この状態を僕は否定していた。何しろ特にそういう状態がきていたのが精神的にも経済的にも物理的にも余裕がない状態でやってくるのだから。だから、僕は今までこの状態にいることが恐ろしかった。

その緩やかなメッセージが伝えているのは  
「執着しないで、もっと自分のやりたいことを伸ばしていきなさい、お前が明日の不安を考えなくても向こう側から黙って解決されていくんだから」

といったものである。  
これがどこからのメッセージなのかは知らないけれど、たいていそういう助言が出るときは忙しくててんてこまいな日々なのである。

だから、僕は頭ではわかっているけれど、その言葉を無視してやってきた。しかし、結果としてわかったのは

以下、本編にて